

町指定文化財

21 傍示本 春日社（神明社）の懸仏



永享2年（1430）に沓掛城主（近藤氏）が奉納寄進しているもので、円形の鏡板（かがみいた）上に薄い銅板が貼られ、中央に2躰（たい）の仏像が配されています。

背面には奉納寄進の時期と寄進者名が墨書されていて、この内容から傍示本村は、永禄3年（1560）の桶狭間の戦いのときまで、100年以上の間、沓掛城主である近藤氏の勢力下であったことがわかります。